

共同運営部門：相談支援室・がん相談支援センター

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
診療局長兼外科統括部長 兼消化器外科部長 兼がん相談支援センター長	種村 匡弘
医療マネジメント課 課長	平松 昌典
看護局 外来	飛野 悦子
医療マネジメント課 相談支援室	下村 恭子

—概要—

当部門は、患者、家族の疾病についてや、治療方針についての不安や悩みの相談窓口であり、次の役割がある。

がん相談支援センター 大阪府指定のがん診療拠点病院の「がん相談支援センター」の役割を担い、がん関連の様々な不安、悩み、心配ごとの解決や支援を行う。

相談支援室 がん以外の疾患に伴う相談は「相談支援室」として対応しており、不安や悩みの相談を受けている。

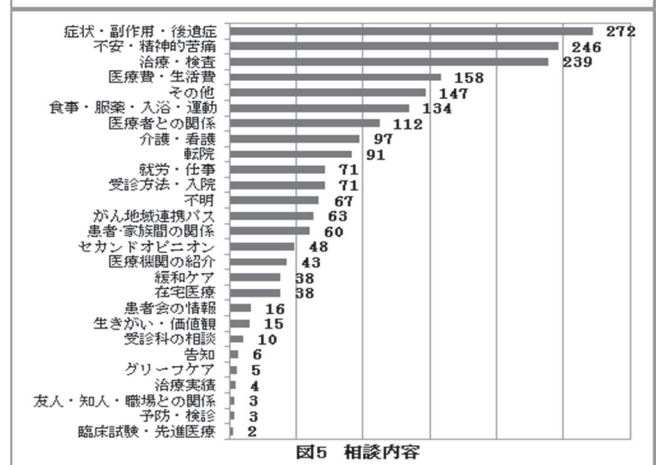
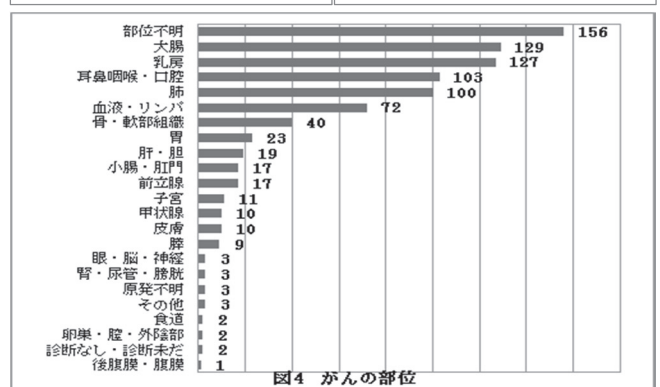
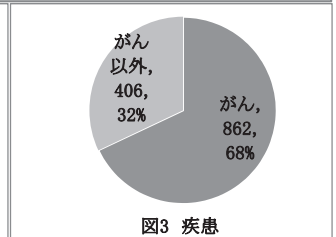
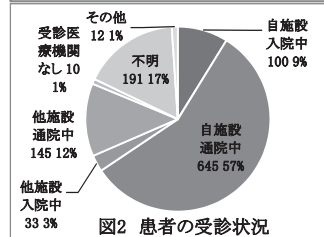
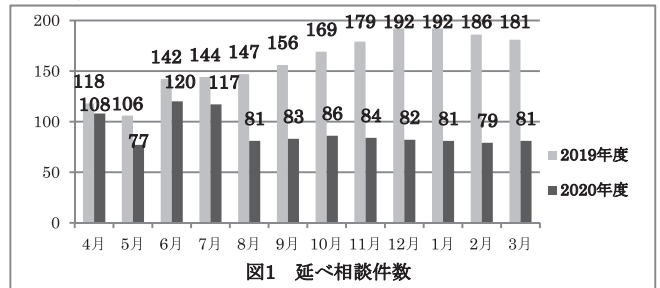
上記支援は、当院の患者、家族だけでなく、他院の患者を含め地域住民なら誰でも利用できる。相談方法は、面談や電話で内容をうかがい、予約は不要であり、相談料は無料です。看護師とMSWが相談内容を検討し問題解決の支援にあたっている。

セカンドオピニオン相談 患者に最善の医療を選択して頂くため、セカンドオピニオン外来を設けている。当院受診希望の相談や、セカンドオピニオンとはどのようなものか、セカンドオピニオンを受けるべきか否か悩んでいるなど、診療に関する幅広い相談に対応している。

2020年度の延べ相談件数は1,079件(図1)で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて前年度より833件減少した。患者の受診状況は66%が当院患者で、他院患者、地域住民は34%であった(図2)。疾患はがんが68%、がん以外は32%(図3)で、がんの部位別では部位不明、大腸、乳房の順に多かった(図4)。相談内容の延べ件数は計2,059件(図5)で延べ相談件数(図1)の1.9倍であることから、患者は現行治療と並行して複合的な悩みを抱えていることが分かる。看護師とMSWは患者、家族の不安や悩みをしっかりと受け止め、問題整理をし必要かつ確かな情報提供、支援を行うよう心掛けている。治療方針などに悩む場合は認定看護師、専門看護師によるインフォームドコンセントの同席や看護外来、がんに伴う身体的、精神的苦痛を緩和する緩和ケアチームや心療内科、精神科と連携し対応している。

相談員は泉州がん診療連携協議会相談支援部会で支援課題や対応を協議し、国立がん研究センターの「認定がん専門相談員」研修で最新の知識を積み重ねている。

—実績—



—今年度の支援状況と今後の新しい取り組み—

がん相談支援センターや相談支援室の活動、意義について地域住民に理解を深めて頂くため、「出張がん相談」、「がん患者サロン」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症のため、残念ながら今年度は活動を自粛した。しかし、患者の立場としては交流相談の場は必要であり、泉州がん相談支援部会では、ポストコロナ・ウィズコロナを見据えオンラインを利用した交流会、体験型動画配信などを検討しており、患者及び家族が安心して相談できる新しい形態での支援体制を構築していく。